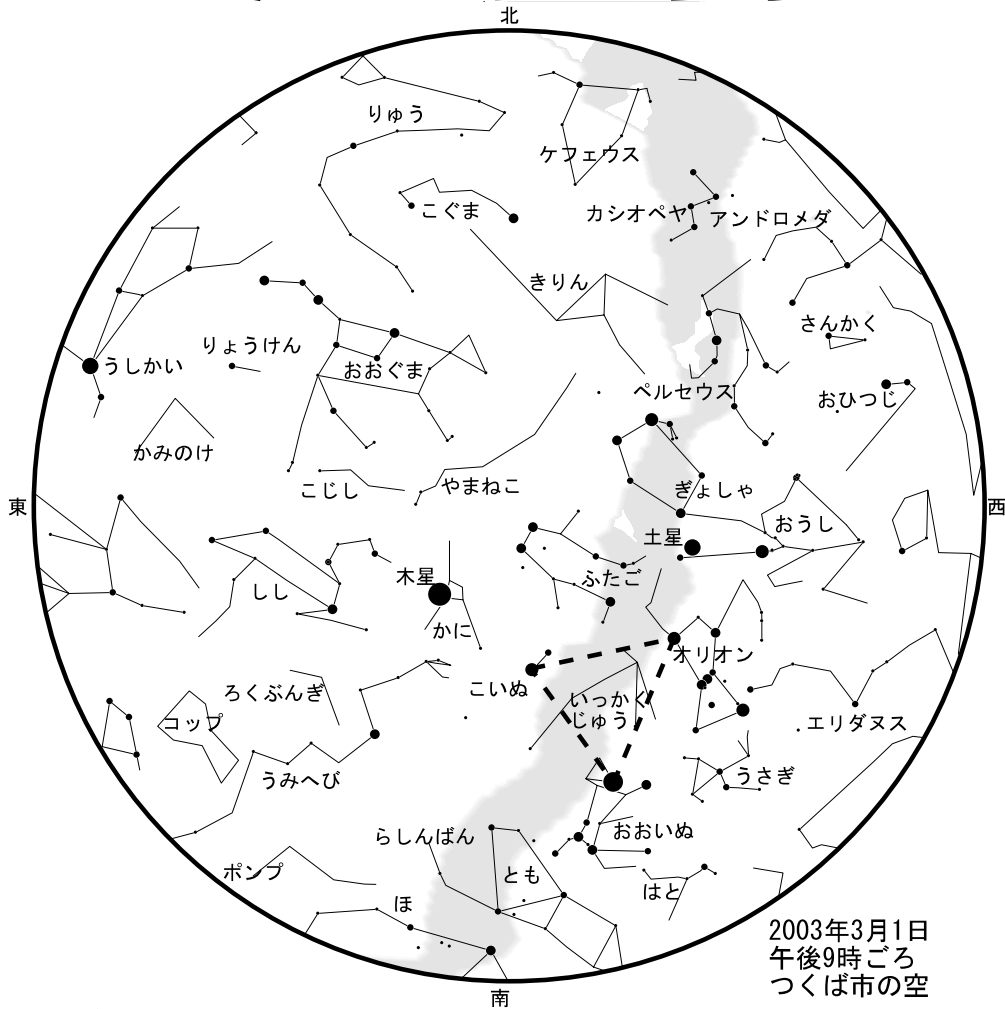


# 冬から春の星空



2月3日の<sup>せつぶん</sup>節分を過ぎると<sup>こよみ</sup>暦の上では春ですが、<sup>ほしぞら</sup>星空では冬の星座が見やすい時期になっています。午後8時から9時ごろ、南の空を見上げると、みんなも良く知っているオリオン座<sup>どうどう</sup>がその堂々とした姿を見せています。オリオン座の右肩のベテルギウスとこいぬ座の<sup>みぎかた</sup>プロキオン、<sup>むす</sup>おおいぬ座のシリウスを結んで出来る冬の<sup>こうせい</sup>大三角も目につくことでしょう。おおいぬ座のシリウスは恒星の中で最も明るい星ですが、今年の空にはそれよりも明るい星が<sup>かがや</sup>輝いています。明るい星が2個仲良く<sup>なら</sup>んだふたご座と、クエスチョンマーク(?)をひっくり返したような形が<sup>とくちょうてき</sup>特徴的なしし座の間に、ひときわ明るく<sup>かがや</sup>輝く星があります。これは木星です。木星はシリウスなどの恒星と違い、<sup>たいよう</sup>太陽の周りを回る地球の仲間の<sup>わくせい</sup>惑星です。<sup>そうがんきょう</sup>双眼鏡などがあれば、木星に向けてみましょう。木星の周りに小さな星が見えませんか？これらは、<sup>てんもんがくしゃ</sup>天文学者のガリレオが発見したので「ガリレオ衛星」と呼ばれる木星の4つのお月さまです。その1つ、エウロパと呼ばれる衛星には水があって、地球の<sup>かいいていおんせん</sup>海底温泉にいるような、<sup>ひかり</sup>光も<sup>さんそ</sup>酸素もない<sup>かんきょう</sup>環境で生きられる生命がいるのではないかと<sup>さいきんかんが</sup>最近考えられています。本当なら非常に<sup>ひじょう</sup>興味深い<sup>きょうみふか</sup>ですね。